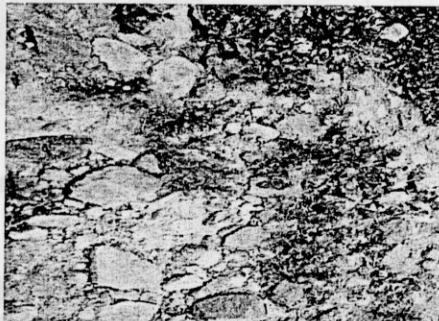


パイナップル草って 知っていますか?



今年、紅葉山49号遺跡の発掘は、発寒川に近い防風林のそばで行われています。防風林の緑と林床の美しい野草、小鳥のさえずりなどが発掘作業の疲れを癒やしてくれます。今回は発掘現場で教えてもらつた野草の話をしてみましょう。

先日、発掘調査で写真を担当しているMさんからパイ



●事務所裏のパイナップル草



歴史のドアを開けよう

Natural History
第35回

いしかり博物誌

■文化財・博物館開設準備室 ☎0133-72-6123
E-mail:bunkazaih@city.ishikari.hokkaido.jp



●パイナップル草（長田武正 1997 原色日本帰化植物図鑑より）

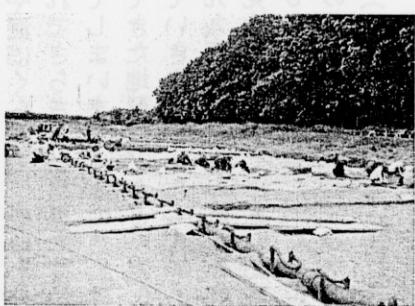
ナップルの香りがする野草があるという話を聞きました。そんなおいしそうな草があるとは半信半疑でしたが、探すと確かにその野草はあります。しかも発掘事務所のすぐ裏にあったのです。草丈は四五センチで、花は茎の先にある半球形の帽子のような部分で色は黄緑色をしていました。花の部分に鼻を近づけてみると、彼女のいうとおりフルーツ系のいい香りがしました。

野草の本を見てゆくと、この草はキク科の一年草で和名は「コシカギク（子鹿菊）」といふ。帰化植物らしいことがわかりました。さらに、「パイナップルに似た香氣がある」と記載されました。

開花期間は六月から十月ご

また、この野草は「オロシャギク」（ロシアの菊の意味）ともいいます。原産はアジア東北部といわれ、サハリンから北欧諸国に分布するそうです。国内では北海道および東北地方の海岸付近でみられ、サハリン経由で分布が広がったようと思われます。ご承知のように帰化植物は本来、日本国内に産しない植物が人を媒介にして根付いたものです。

これがいっぽう北海道に入つたか不明ですが、「オロシャギク」の名から連想すると幕末期に石狩は北蝦夷地（現在のサハリン）場所の經營拠点だったことなどから、あるいはこのころ帰化したのかも知れません。

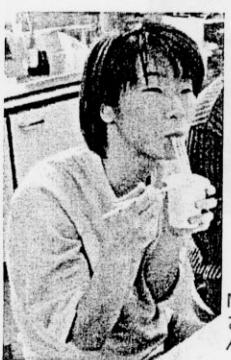


●発掘風景（右の林が防風林）

ろということです。小さいですが注意深く探すと割に良くある植物ですので、皆さんも一度探してみたらいかがでしょうか。すてきな香りとともに石狩の歴史もイメージできるかもしれません。

ちなみに英語でも、この草をPineapple-Weed（パイナップル草）というそうです。

（石橋孝夫）



Mさん